

日本聖公会 弘前昇天教会教会堂

青森県弘前市大字山道町

JR弘前駅から徒歩で10分ほど、住宅街の一面に弘前昇天教会の煉瓦造の尖塔が見えてくる。三つ葉型のアーチに飾られた鐘楼だ。建物の構造はゴシック様式の木造平屋建て。イギリス積みの赤煉瓦と各所に施された雨水の浸潤を防ぐ白い水切り石のコントラストが際立つ。水切り石は弘前市近郊の山から採取された自然石が用いられ、その表面には精巧なキリスト教のシンボルが刻印されている。建設されたのは大正9年、設計は宣教師として来日した後、立教大学校長を務めた米国人建築家のJ・M・ガーディナー。日本各地の聖公会教会堂の設計を手掛けた人物だ。施工はクリスチャンの地元大工、林緑が担ったと伝えられている。

「貧しかった当時、よくこれだけ立派な教会堂を建てることができたなと。布教のためとはいえ米国の支援の賜物だと思います」と教会委員の戸泰彦さんは話す。鐘楼の聖鐘も、米国の信徒たちの尽力によって鑄造され、長い船旅後この地にやってきたのだという。裏手の坂の下から仰ぐ煉瓦の教会堂は、堂々とした重厚な造りでありながら、どこか優しい表情を見せる。「この赤茶色の建物は私が生まれた時からずっとここにありました。これからも地域のシンボルとして大事に残していかなければ」と戸さんは話してくれた。



聖堂内部の腰壁も煉瓦。木材には青森産のヒバ材がふんだんに用いられた。直線的な柱や屋根を支えるトラスと、アーチ状の梁、そして褐色の煉瓦が、静謐な空間を演出している。昇天教会の聖堂は貴重なゴシック様式建築物として1993年、青森県の指定文化財に登録されている。

